

平成31(令和元)年度東京都立西高等学校学校経営報告

自己評価の基準：【A】十分に達成できた【B】概ね達成できた【C】あまり達成できなかった

今年度の教育活動への取組と重点目標	自己評価
<p>1 「授業で勝負」の理念のもと、日常の授業を改善するとともに、生徒の主体的な学習意欲の向上を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①日々の授業を通して、授業を第一に考える生徒を育成する。</p> <p>②「学習の手引き」に基づき、計画的で主体的な学習態度を育成する。</p> <p>③教科マネジメントの確立、研修の充実等により、教科指導力の向上を図る。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○生徒による授業評価アンケート結果により「学習の手引き」の活用指導とその検証</p> <p>○自学自習態度の育成</p> <p>○授業改善に向けての校内研修会の工夫・改善</p> <p>○土曜講座の充実</p>	<p>[数値目標1] 生徒の「学習への取り組みの自己評価」の向上 (目標75%)</p> <p>→【B】「学習への取組」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な回答者の割合は70%で、昨年度より3%低下している。また、保護者については、肯定的な回答者の割合が昨年度の77%から80%と微増した。教員については昨年の82%から91%と上昇している。生徒は自らを厳し目に評価していると思われる。学習に主体的に取り組む生徒の態度を育成する取組を継続していきたい。</p> <p>[数値目標2] 1・2年生の自宅学習時間2時間以上</p> <p>→【B】1年生の自宅学習時間は平均で1.63時間であり、昨年度(1.88時間)と比較して微減した。2年生は平均で1.71時間であり、昨年度(1.84時間)と比較して微減した。学年集会や学習ガイダンス等で、限られた時間に集中して家庭学習に取り組む指導をしている成果とも考えられるが、課題の出し方の工夫を含めて、継続した検証と指導が必要である。</p> <p>[数値目標3] 生徒の授業満足度の維持(昨年83%)</p> <p>→【A】「満足できる授業」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な回答者の割合は89%で、昨年度より4ポイント上昇している。教員の肯定的な回答者の割合は、昨年度と比較して4.2ポイント上昇した。教員は、新学習指導要領で謳われている新しい学力観に基づいて、授業改善を進める必要がある。</p>
<p>2 学習環境の整備と生活規律の向上</p> <p>《方策》</p> <p>自覚を促す指導を通して、</p> <p>①校内美化の徹底</p> <p>②生徒の自己管理能力の育成</p> <p>《重点目標》</p> <p>○生徒の美化意識向上</p> <p>○自分の物と時間の自己管理を徹底</p>	<p>[数値目標4] 校内美化に関する学校評価を10%上昇</p> <p>→【B】「校内美化の取組」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な回答者数の割合は54%で、昨年度59%と比較して微減している。生徒・保護者・教職員とも清掃活動の重要性を認識しており、今後とも清掃やゴミの分別などの徹底を進めていく。また、本年度は複数の改修工事を進めているが、時間を要するものもあるので、トイレなどの施設改修を含めて、計画的に学習環境の整備に取り組んでいく。</p> <p>[数値目標5] 遅刻者数を10%減少</p> <p>→【B】学年での指導や遅刻指導月間の実施により、今年度も遅刻者は減少傾向にある。</p> <p>[数値目標6] 遺失物等を減少</p> <p>→【B】生徒の貴重品や私物の管理は、生徒部や学年の指導を通じて改善に努めているが、今後も、ロッカー施錠の励行など、私物管理の徹底などの指導を継続していく。</p>

<p>3 教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、服務規律を遵守するとともに、協働意識を向上させ、ライフ・ワーク・バランスを図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①服務規律を徹底する。 ②情報資産の厳密な管理。 ③情報の共有化と会議の効率化を心がける。 ④分掌・教科等を超えた協働体制を整える。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○情報資産の管理体制の遵守 ○計画的な仕事の進め方により、分掌や学年が連携して業務の効率化を図る</p>	<p>[数値目標7]服務事故防止研修の実施 →【A】4月、7月、12月の3回、悉皆の校内研修を実施した。本校の実態に応じた研修内容の充実を図っていく。</p> <p>[数値目標8]服務事故や服務上の課題ゼロの継続 →【A】企画調整会議や職員会議、教職員一斉メール等を活用し、服務事故防止を徹底した。特に、個人情報の管理(クリーンデスク、定期考査における答案の紛失防止)、私費会計の適正な処理(合宿費、部費)、体罰や不適切な指導の禁止(生徒及び教職員にアンケートと聴き取りの実施)、入学者選抜における採点誤り防止に重点的に取り組んだ。事故のない職場を実現するため、今後も努力を重ねていく。</p> <p>[数値目標9]在校時間が80時間／月を超える教員ゼロ →【C】月当たりで80時間超となった教員が平均で5名となった。教材の共有化などによる効率的な授業準備、部活動指導員活用などで負担軽減、業務分担の見直しなどで、在校時間の適正化に取り組んでいく。</p>
<p>4 教育改革の動向を見据えた指導体制、内容の見直し</p> <p>《方策》</p> <p>①大学入試改革に対応した指導体制の見直し ②新学習指導要領を踏まえた指導内容・方法の改善・充実</p> <p>《重点目標》</p> <p>○探究学習の着実な実施に向け、Wi-Fi 環境による学習クラウドなどの活用 ○教育課程、指導内容・方法の見直し</p>	<p>[数値目標 10]将来構想委員会等での検討 →【B】他校の先進的な取り組みを参考に検討を重ね、1・2学年の「探求的な学習」を推進し、ポスターセッションで成果発表を行った。</p> <p>[数値目標 11]全教職員の共通理解を図るための校内研修等の充実 →【B】年間10回の校内研修会を実施して、授業力向上や新教育課程、模試結果などの情報共有を図った。</p>
<p>5 本校の教育に理解と共感を抱く保護者、生徒の拡大を図り、挑戦意欲旺盛な生徒の獲得を目指す。</p> <p>《方策》</p> <p>①全校体制で広報活動を実践する。 ②委員会を中心に、効率的・効果的な広報活動を実践する。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○本校への入学希望者の拡大</p>	<p>[数値目標 12]本校への入学希望者の維持 (目標:推薦倍率3.50倍、一次倍率1.70倍) →【B】推薦に基づく選抜の応募倍率は、男女計3.39倍であった。学力検査に基づく選抜の応募倍率は男女計1.65倍であった。推薦入試は、昨年度と比較して0.21ポイントの減となり、学力検査は昨年度と同じであった。広報活動を工夫して、応募倍率の向上を図っていく。</p> <p>[数値目標 13]ホームページ更新回数の維持(目標450回) →【A】システム変更があって、のべ数で370回の更新にとどまったが、変更後は、随時更新を行い、ホームページの内容を充実させた。</p>

<p>○学校説明会の時期・形態の見直し</p> <p>○効率的な広報活動の開発</p>	<p>中学生・高校生が使用することが多いスマートフォンの画面でも見やすい構成となった。ツイッターも同時活用して、教育活動の動きを刻々と情報発信した。</p> <p>[数値目標 14]外部での学校説明会の継続実施(目標18回)</p> <p>→【A】「学習塾等主催説明会」22回、「都立学校等合同説明会」1回に参加し、昨年度より6回増加した。中学生対象学校紹介や入試問題説明会、小学生保護者学校説明会など、広報委員会を中核に積極的な広報活動を展開した。</p>
<p>6 キャリア教育や国際交流事業の推進等を通して、変化する社会の中で次代を担う人材の育成を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>① 3年間を見通した系統的なキャリア教育の実践の推進、PTAや同窓会と連携したキャリア教育関連事業の充実を図る。</p> <p>② 国際交流事業の体系化と教科等の学習活動との関連の明確化を図る。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○職業的自立意識の醸成</p> <p>○国際理解の深化と国際協調の精神の涵養</p> <p>○グローバルリーダー育成に向けての施策の充実</p> <p>○姉妹校交流の推進</p> <p>○オリ・パラ教育の充実</p>	<p>[数値目標 15]訪問講義の充実(目標 4 回)</p> <p>→【A】4回の訪問講義を計画したが、講師の都合で3回の実施となったが、昨年度と比較して1回少ないにもかかわらず、参加者は358名となり16名増加した。学級担任が加わった教育支援事業委員会で、生徒の興味関心を高めるテーマ選択、講師選定を行った。</p> <p>[数値目標 16]ジョブシャドウの拡大(昨年12名)</p> <p>→【B】2施設で11名がジョブシャドウに参加した。前回の医療体験講座の報告会を開催した結果、本年度も10名の生徒が病院での医療体験に参加した。</p> <p>[数値目標 17]国際交流事業の充実</p> <p>→【B】3月の「リーダーシップ・プログラム(アメリカ研修)」に40名の生徒が参加する予定だったが、感染症防止の観点から中止となったが、今後も同プログラムを継続していく。</p> <p>[数値目標 18]留学、海外研修等参加生徒の維持(昨年88名)</p> <p>→【B】「アメリカ研修」は中止(参加予定40名)、「留学」に16名、「スタンフォード大学研修プログラム」に3名、「エンパワーメントプログラム」が中止(参加予定30名)、姉妹校交流に15名参加で、留学や海外研修等の参加生徒はのべ数で34名となった。安全確保を図りながら、留学・海外研修を継続していく。</p> <p>[数値目標 19]リーダーシッププログラムの充実</p> <p>→【B】昨年度に続き、首都圏進学校によるスタンフォード大学研修プログラムを夏季休業中に実施し、3名の生徒が参加した。</p> <p>[数値目標 20]姉妹校交流の推進</p> <p>→【A】昨年度に姉妹校提携したインドネシアの Al Izhar 校の生徒を受け入れ、2月に本校生徒20名が Al Izhar 校訪問を行い、相互にホームステイ、授業参観、校外見学、文化交流を行った。</p>

<p>7 考査や模擬試験等を通して「学習の手引き」の検証と改善を行うとともに、教科としての学習支援体制の一層の充実を図る。また、教科資料の共有化を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①各種試験を調査分析する。</p> <p>②その分析に基づく教科としての学習支援体制の充実を図る。</p> <p>③教材や課題プリント等の共有化を図る。</p> <p>《重点目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題分析集の作成 ○検証に基づく教科シラバスの改訂 ○補習補講の充実 ○教材の共有化 ○個人データの活用 	<p>[数値目標 21]「教え方の工夫」に関する生徒肯定評価90%以上</p> <p>→【A】「教材や教え方の工夫」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な回答者数の割合は92.7%で、昨年度より3.6ポイント上昇した。また、教員の回答は95.5%で、昨年度とほぼ同じだった。</p> <p>[数値目標 22]夏期講座、日常的な補習・補講の充実 (目標:夏期講座80以上)</p> <p>→【B】夏期講座は76講座を開講し、前年度と同じだった。</p> <p>[数値目標 23]センター試験における6教科18科目の平均点合計を全国平均合計で300点上回る。</p> <p>→【A】大学入試センター試験の6教科18科目の平均点合計で、全国平均合計を341点上回り、昨年度とほぼ同じであった。</p>
<p>8 三年間を見通した継続的・計画的な指導を通して、主体的に活動する生徒の育成を図るとともに、高い進路希望の実現を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①「学習の手引き」に基づき、計画的な指導を行う。</p> <p>②面談やホームルーム活動等を通して生徒理解に努め、生徒が意欲あふれる学校生活を送れるようにする。</p> <p>③生徒の個人データや学年進路通信、進路ノート等を活用し、進路意識の啓発に努め、高い進路希望の実現を支援する。</p> <p>《重点目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○勉強と特別活動の両立 ○生活規律の確立と美化意識の向上 ○生徒理解の研修会の実施 ○自覚を促す進路指導の充実 ○「学習の手引き」の活用の一層の促進 ○個人データの活用 	<p>[数値目標 24]生徒の入学満足度95%</p> <p>→【A】「入学満足度」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な回答者数の割合は94.4%で、昨年度より2.4ポイント増加となった。「文武二道」や「自主自律」の取組を継続することで、魅力ある学校づくりに努める。</p> <p>[数値目標 25]保護者の入学満足度100%</p> <p>→【B】「入学満足度」に関する学校評価アンケートで、保護者の肯定的な回答者数の割合は95.3%で、昨年度とほぼ同じであった。</p> <p>[数値目標 26]1・2年生の自宅学習時間2時間以上</p> <p>→【B】1年生の自宅学習時間は平均で1.63時間であり、昨年度(1.88時間)と比較して微減した。2年生は平均で1.71時間であり、昨年度(1.84時間)と比較して微減した。学年集会や学習ガイダンス等で、限られた時間に集中して家庭学習に取り組む指導をしている成果とも考えられるが、課題の出し方の工夫を含めて、継続した検証と指導が必要である。</p> <p>[数値目標 27]遅刻者数の減少</p> <p>→【B】学年での指導や、年間2回の遅刻指導月間の実施により、遅刻者は引き続き減少傾向にある。</p> <p>[数値目標 28]美化に関する生徒の学校評価の向上</p> <p>→【B】校内美化の取組に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定</p>

	<p>的な回答者数の割合は54%で、昨年度59%と比較して微減している。生徒・保護者・教職員とも清掃活動の重要性を認識しており、今後とも清掃やゴミの分別などの徹底を進めていく。また、本年度は複数の改修工事を進めているが、時間を要するものもあるので、トイレなどの施設改修を含めて、計画的に学習環境の整備に取り組んでいく。</p>
<p>9 特色ある教育課程のもと教育環境を整備し、生徒の主体的・意欲的な学習態度を育成するとともに、自学自習の習慣の定着を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①大学入試改革を見据えた教育課程の見直し</p> <p>②生徒の自学自習の態度を育成する。</p> <p>③進路部と協働して、三年間の生徒の学習実績を検証する。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○現行教育課程の成果・検証</p> <p>○学習ガイダンスの実施と「学習の手引き」の改訂</p> <p>○生徒の自学自習を支援する体制の整備</p>	<p>[数値目標 29]年間の授業時数1000時間以上の確保</p> <p>→【C】曜日を変更して授業を行うなどの工夫により、1学年990時間、2学年1014時間を確保したが、感染症拡大防止を図る臨時休業のため、昨年度の1学年1041時間、2学年1017時間を下回った。</p> <p>[数値目標 30]将来構想委員会等で成果検証</p> <p>→【B】他校の先進的な取り組みを参考に検討を重ね、1・2学年の「探求的な学習」を推進し、ポスターセッションで成果発表を行った。</p>
<p>10 生徒の高い進路希望を実現するために、進路情報や進路資料を整備し、段階的、体系的な進路指導を実施する。</p> <p>《方策》</p> <p>①進路通信や学年集会等を活用し、進路意識の啓発を図るとともに、緻密にして、体系的な進学指導を行う。</p> <p>②進路指導室の進学指導資料の充実を図る。</p> <p>③学年との連携を図り、進路相談機能を充実する。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○蓄積された進路情報の分析と校内への周知</p> <p>○教師用の進路資料の充実</p> <p>○現行の進路指導計画の検証</p> <p>○新たな進路データベースの円滑な運用</p>	<p>[数値目標 31]進路結果の分析会の実施(4回)</p> <p>→【B】引き続き、7月に進研総合学力マーク模試分析会(3年)、10月にベネッセ駿台マーク模試分析会(3年)、12月に進研総合学力模試分析会(1、2年生)、3月に学研ハイレベル模試分析会(1年)・プロシード模試(2年生)の結果分析会を開き、生徒の学力の把握と理解に努めた。</p> <p>[数値目標 32]生徒の進路情報・進路指導満足度90%の維持</p> <p>→【B】「進路情報の提供」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な回答者数の割合は約88%で、1.5%の微減であった。「進路便り」の活用を進めるなどの対策が必要である。</p> <p>[数値目標 33]自習室利用の維持、チューター利用の増加(昨年:自習室3965名、チューター275名)</p> <p>→【B】西高会館の自習室利用は3258名で、昨年度より減少したが、公立図書館など学習場所の多様化によるものと考えられる。チューター利用は356名で、進路部や学年の働きかけが奏功し、昨年度より81名増加した。</p>

<p>11 多様な部活動や学校行事を通して、主体的に取り組む生徒の育成を図るとともに、規律ある学校生活の中で、遅しく生きる生徒の育成を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①活気に溢れる中でも規律ある学校生活をつくり上げる。</p> <p>②行事・部活動等の支援体制を整備し、目的と規律のある特別活動の一層の充実を図る。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○真の文武二道に向けた指導体制の確立</p> <p>○規律ある学校生活の確立</p> <p>○目的意識や課題意識のある生徒の育成</p> <p>○進化する学校行事の実践</p>	<p>[数値目標 34]部活動加入率100%</p> <p>→【B】活発な部活動が行われているが、兼部の生徒も含めた部活動・同好会・サークルへの加入率は154%となり、数値目標を達成した。今後も継続して文武二道の完遂を指導する。</p> <p>[数値目標 35]遅刻者数の減少</p> <p>→【B】学年担任からの継続的な指導や年間3回の遅刻指導月間の実施により、今年度の遅刻者数も減少傾向となった。</p> <p>[数値目標 36]遺失物等の減少</p> <p>→【B】生徒の貴重品や私物の管理は、生徒部や学年の指導を通じて改善に努めているが、今後も、ロッカー施錠の励行など、私物管理の徹底などの指導を継続していく。</p> <p>[数値目標 37]学校行事への生徒の取り組みに関する評価90%</p> <p>→【B】「学校行事への取組」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な回答者数の割合は87%で、昨年度より5ポイント上昇した。90%を目指して充実を図っていく。</p>
<p>12 生徒の自己管理能力を育成し、健康で安全を心がける生徒の育成を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①生徒による主体的な活動を支援し、校内の美化や衛生の改善に努める。</p> <p>②スクールカウンセラーらの活用を通して、生命尊重と思いやりの心を育む。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○校内美化の徹底</p> <p>○生徒理解の深化</p>	<p>[数値目標 38]美化に関する学校評価を上昇</p> <p>→【B】校内美化の取組に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な回答者数の割合は54%で、昨年度59%と比較して微減している。生徒・保護者・教職員とも清掃活動の重要性を認識しており、今後とも清掃やゴミの分別などの徹底を進めていく。また、本年度は複数の改修工事を進めているが、時間を要するものもあるので、トイレなどの施設改修を含めて、計画的に学習環境の整備に取り組んでいく。</p> <p>[数値目標 39]生徒理解の研修会の継続実施(2回)</p> <p>→【C】臨時休業などでSCを含む研修会は実施できなかったが、来年度は早めに準備を進める。</p> <p>[数値目標 40]スクールカウンセラーとの相談件数の維持</p> <p>→【A】相談は通年行われ、保護者・教員・生徒の相談件数はほぼ昨年度と同数であった。</p>
<p>13 P T A、同窓会をはじめ地域や社会教育と連携することにより学校支援体制を整え、教育環境・条件の改善整備に努める。</p> <p>《方策》</p> <p>①P T Aや同窓会との連携を深め、教育環境の整備に努める。</p>	<p>[数値目標 41]保護者の入学満足度100%</p> <p>→【B】「入学満足度」に関する学校評価アンケートで、保護者の肯定的な回答者数の割合は95.3%で、昨年度とほぼ同じであった。</p> <p>[数値目標 42]</p> <p>→【A】4回の訪問講義を計画したが、講師の都合で3回の実施となったが、昨年度と比較して1回少ないにもかかわらず、参加者は35</p>

<p>②学校運営連絡協議会の円滑な運営を行う。 ③式典や文化事業の円滑な実施。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○PTAや同窓会による生徒への支援活動の円滑な実施 ○文化事業の工夫 ○学運協をはじめ外部の意見を校内に周知</p>	<p>8名となり16名増加した。学級担任が加わった教育支援事業委員会で、生徒の興味関心を高めるテーマ選択、講師選定を行った。</p>
<p>14 計画的な予算執行と校内関係部署との連携により、円滑な教育活動を支援するとともに、温かい窓口業務を行う。</p> <p>《方策》</p> <p>①業務内容に応じて、日頃から管理職や関係教員との連携を心がけ、円滑な実施を可能とするとともに、業務の省力化を心がける。 ②丁寧で温かい窓口業務を行う。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○関係部署との連携 ○業務の効率化、省力化 ○計画的にして効率的な予算執行 ○施設の老朽化に対する対応</p>	<p>[数値目標 43]令和2年度予算大綱を10月までに決定 →【A】予算大綱である予算編成指針は、今年度も9月末に決定をした。</p> <p>[数値目標 44]自律推進経営予算の執行を第2四半期終了までに70%を目指す。 →【B】自律推進経営予算の執行率は62%であった。管理職・教員と経営企画室の密接な連携を図り、円滑な業務を継続して行うことで、数値目標の早期達成を目指す。</p>

次年度以降の課題	対応策
<p>【学習指導】</p> <p>①新学習指導要領への対応 ②学習クラウドの活用 ③ICT 機器の有効活用 ④成績管理サーバー上の成績処理推奨ファイルの有効活用 ⑤成績管理ファイルシステムを運用できる人材の育成</p>	<p>【学習指導】</p> <p>①本年度決定した教育課程を具体化していく。 ②他校の実践例等を参考にしながら、学習クラウドの活用を研究し、実践・普及を図っていく。 ③教員の相互授業参観や校内研修を通じて、ICT 機器を有効活用した授業改善への取組みを推進する。 ④学習活動の基礎データの管理・蓄積について進路部の蓄積データと併せて具体的な活用法を開発する。 ⑤成績管理ファイルを運用できる人材の育成を進める。</p>
<p>【生活指導】</p> <p>①活発で適正な部活動の推進。 ②遅刻常習者の減少。 ③交通事故の防止。 ④防犯上の安全確保。 ⑤SNS の適切な使用。</p>	<p>【生活指導】</p> <p>①部活動の活性化を目指す一方で、都のガイドラインに基づいて適正な運営を行うとともに、部活動指導員を活用して顧問教員の負担軽減を図る。 ②指導を年3回実施して遅刻常習者の把握と指導を行う。 ③各学年での交通安全指導や自転車保険加入推進などにより交</p>

	<p>通安全の意識を高め、交通事故を防止する。</p> <p>④ロッカー利用の推進や通年の校内巡回などで、防犯体制を維持・強化する。</p> <p>⑤ネット上のトラブルの防止に向けて SNS の適切な使用について、情報の授業や安全教室などを通じて指導する</p>
<p>【進路指導】</p> <p>①探求学習の導入に対応した学習クラウドの活用。</p> <p>②英語の4技能型外部検定試験の結果分析と活用。</p> <p>③チューターの活用。</p> <p>④第一志望を諦めない指導。</p>	<p>【進路指導】</p> <p>①学習クラウドの継続利用で、探求学習等での活用に向けた指導法等の研究を進める。</p> <p>②すでに英語の4技能型外部検定試験の結果等に基づいて年5回のスピーキングテストを導入しているが、継続して4技能育成の指導を行っていく。</p> <p>③科目選択や定期考査前等の時期に、ミニ講座等を開くなどでチューターの一層の活用を図る。</p> <p>④卒業生を活用したキャンパスツアーや講演会の実施により志望大学への理解を深化させて、最後まで第一志望をあきらめない進学指導を行う。</p>
<p>【保健美化指導】</p> <p>①ゴミの減量化の取組み。</p> <p>②美化清掃の改善。</p> <p>③教室および廊下ロッカーの上の私物や備品の整理。</p> <p>④粗大ゴミ処分。</p>	<p>【保健美化指導】</p> <p>①運動会や記念祭でのゴミ減量化をさらに進めるとともに、日常生活でのゴミの持ち帰り、減量化の意識を更に高め、各生徒に積極的な実行を促す。</p> <p>②生徒の美化意識を向上させるとともに、担任や担当教員が日々指導する。また、分別意識を高める活動を美化委員を中心に展開する。</p> <p>③生徒の持ち物の管理方法について継続検討する。</p> <p>④粗大ゴミの計画的処分を進める。</p>
<p>【学年における指導】</p> <p>①肯定的に自己を捉え、自主的かつ臨機応変に活動する力の育成。</p> <p>②1・2年次での確実な学力定着と3年次での読解力・記述力の育成。</p>	<p>【学年における指導】</p> <p>①本校で実施される講演会や訪問講義などの体験活動への自主的参加・体験を促し、またその取組成果を生徒が共有できるように工夫する。</p> <p>②補習や講習の実施により、苦手科目を作らせない学習指導を行う。記述模試や思考力テストの活用と検証を進める。</p>
<p>【防災教育】</p> <p>①「宿泊を伴う防災体験活動」の実施時期や、講話や体験活動内容・避難訓練の実施形態など、次年度に向けて改善を行う。</p>	<p>【防災教育】</p> <p>①実施後の反省点を検討し、諸機関・該当学年との相談を早期実施する。</p>